



道標(みちしるべ)

市内には多くの道標が残っています。これらの多くは、交通網が発達し人々の行き来が盛んになった江戸時代後期頃に建てられたものです。今回は緒川～氷之沢～高部～東河戸～タバコ峠の、美和地域のルートに注目しました。多くの道標は道路の改変等で撤去や移動されてしまっていますが、当時は分かれ道や峠のほとんどにあったと考えられます。

石碑などの調査は、拓本をとると下図のように文字やデザインがはっきりし、新しく解かることもあります。

緒川から美和へ向かう道の山間にある①の道標は行先のみを記した、比較的小さな道標です。大雑把な距離も記されています。見通しの悪い山道では、こうした道標が役に立ったことでしょう。

花立峠の道標②は市の指定文化財になっており、非常にデザイン性が優れたものです。この道標は、美和方面から緒川方面に向かうための案内です。背面に「のざハ(野沢) 大かい(大貝) ほそ草(細草) 熊ノ草(熊の草) やくま(谷熊) 小だノ口(小田野口)」とあり、周辺の住民により建てられたことがわかります。

小田野口の道標③は、右は小田野を抜けて大那地(栃木)に行く道を示していますが、現在置かれている向きだと高部方面になります。このため、実際は今より東を向いて置かれていたと推定されます。

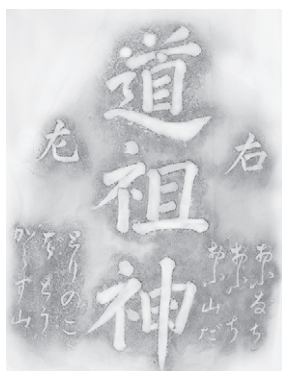
タバコ峠の道標④も、側面の文字から判断すると、道の西側に東を向いて置かれていたと考えられます。

②と④はよく似たデザインで、建てられた年も近いので、製作者が同じであった可能性があります。

このように道標をじっくりたどりながら、旧道を探索すると、昔の人々の行きかう様子を肌で感じることが出来ます。ぜひ歩いてみて下さい。もしかすると、未発見の道標が見つかるかもしれません。

③

〔左側面〕佐藤元秀友得 立之
〔背面〕文政4年(1821年)二月吉祥日



馬頭 鷺子
大山

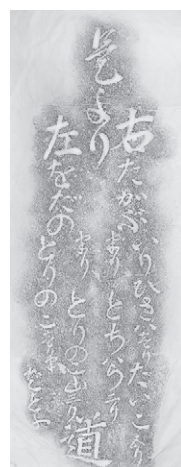
大那地
大内
田

④

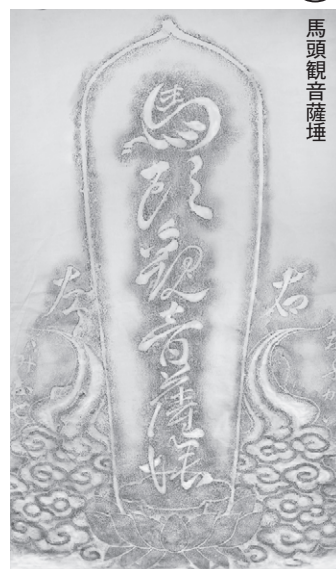


右 高部より入檜沢里 栃原二里 大子五里
是より
左 小田野より 鷺子寺里余り 鷺子山三里
馬頭□□
道

①



②



〔右側面〕右 大貝 小舟 松ノ草 長倉
〔左側面〕左 上小瀬 野口 石塚 水戸
〔背面〕寛政十二年(1800年)孟春
講中 町中
野沢 大貝 細草 熊の草 谷熊 小田野口

馬頭観音塔

〔右側面〕大澤村 栃原村
〔左側面〕百六町 高部村 東河戸
享和元年(1801年)



■問い合わせ■ 文化スポーツ課 文化・スポーツグループ ☎ 52-1111 (内線 344)